

IV. 著 書

- 1) 谷口 洋, 藤島一郎. IV. 神経疾患のリハビリテーション 4. 摂食嚥下リハビリテーション. 小林祥泰¹⁾, 水澤英洋 (国立精神・神経医療研究センター病院), 山口修平¹⁾ (¹島根大). 神経疾患最新の治療: 2015-2017. 東京: 南江堂, 2015. p.283-5.
- 2) 三村秀毅, 井口保之. III. 脳梗塞・一過性脳虚血発作の治療 無症候性脳梗塞および無症候性頸部血管動脈狭窄・閉塞. 辻 省次 (東京大) 総編集, 鈴木則宏 (慶應義塾大) 責任編集. 脳血管障害の治療最前線: アクチュアル脳・神経疾患の臨床. 東京: 中山書店, 2014. p.270.

V. その他

- 1) 大本周作, 吉岡雅之, 崎元芳大, 吉川晃司, 橋本昌也, 鈴木正彦. 慢性結核性髄膜炎による再発性脳幹梗塞を発症した44歳女性例. 臨神経 2014; 54(3): 212-7.
- 2) 大本周作, 福田隆浩, 新井信隆, 鈴木正彦, 横地正之, 河村 満, 後藤 淳, 織茂智之, 藤ヶ崎純子, 星野晴彦. Neurological CPC 若年期からのてんかん加療中に認知障害と海馬硬化を呈した61歳男性例. Brain Nerve 2014; 66(9): 1109-18.
- 3) 谷口 洋, 山崎幹大, 栗田 正. 覚醒時の expiratory flow limitation に持続的陽圧換気療法が有効であった ALS の64歳男性例. 第210回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京, 9月.
- 4) 谷口 洋. 嚥下障害で発症した amyroid myopathy の1例. 第38回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会. 福島, 2月.

腎臓・高血圧内科

- | | | |
|-------|---------------------------|--------------------------|
| 教授: | 横尾 隆 | 腎臓病学一般・腎再生 |
| 教授: | 大野 岩男
(総合診療部) | 尿酸代謝・腎臓病学一般・
膠原病 |
| 教授: | 川村 哲也
(臨床研修センター) | 腎臓病学一般, 特に, 糸
球体腎炎の治療 |
| 特任教授: | 加地 正伸
(晴海トリートメントクリニック) | 腎臓病学一般 |
| 准教授: | 横山啓太郎 | 腎臓病学・透析療法・副
甲状腺疾患 |
| 准教授: | 小倉 誠 | 腎臓病学・透析療法 |
| 准教授: | 宮崎 陽一 | 腎臓病学一般・腎発生学 |
| 准教授: | 三枝 昭裕
(新宿健診プラザ) | 腎臓病学一般 |
| 准教授: | 笠井 健司
(富士市立中央病院) | 腎臓病学一般 |
| 准教授: | 五味 秀穂
(航空医学研究センター) | 腎臓病学一般 |
| 講師: | 島田 敏樹
(全日本空輸) | 腎臓病学一般 |
| 講師: | 中野 広文
(かしま病院) | 腎臓病学一般 |
| 講師: | 雨宮 守正
(さいたま赤十字病院) | 腎臓病学一般 |
| 講師: | 花岡 一成 | 腎臓病学・多発性嚢胞腎 |
| 講師: | 池田 雅人 | 腎臓病学・透析療法 |
| 講師: | 長谷川俊男
(神奈川県立汐見台病院) | 腎不全・透析療法 |
| 講師: | 石川 匡洋
(川口市立医療センター) | 腎臓病学一般・高血圧 |
| 講師: | 小此木英男
(総合診療部) | 腎臓病学一般・高血圧 |
| 講師: | 岡田 秀雄
(神奈川県立汐見台病院) | 循環器病学・高血圧 |
| 講師: | 大塚 泰史
(日本航空) | 腎臓病学一般 |
| 講師: | 平野 景大
(足利赤十字病院) | 腎臓病学一般 |
| 講師: | 坪井 伸夫 | 腎臓病学・腎炎・ネフロー
ゼ症候群 |
| 講師: | 大城戸一郎 | 腎臓病学一般・透析療法 |
| 客員教授: | 栗山 哲
(国税局診療所) | 高血圧 |
| 客員教授: | 徳留 悟朗
(東急病院) | 高血圧 |
| 客員教授: | 市田 公美
(東京薬科大学) | 腎臓病学一般 |
| 客員教授: | 山本 裕康
(厚木市立病院) | 腎臓病学・腎不全・腎移
植 |

教育・研究概要

I. IgA 腎症についての臨床研究

IgA 腎症に対する扁桃摘出+ステロイドパルスとパルス単独を比較する他施設共同 RCT では、1 年目の蛋白尿寛解において、扁桃腺摘出が有効との結果を示した。(Kawamura T, et al. Nephrol Dial Transplant 2014)。また、ステロイドパルス後の再発に関与する因子についても検討し、論文作成中である (Hirano K, et al. 投稿中)。

II. 各種腎疾患における腎生検検査標本上の糸球体密度の臨床的意義に関する検討

これまで、腎機能正常時の低糸球体密度が各種腎疾患において長期予後と関連することを報告し、個人間のネフロン数の違いによる「潜在的な腎予備能の差」の重要性の検証を進めている (Tsuboi N, et al. Clin Kidney J 2014, Kanzaki G, et al. Hypertens Res 2015)。また、日本医科大学病理、モナッシュ大学との共同研究で日本人のネフロン数の推算の研究も進行中である。

III. 高血圧と関連する腎障害に関する臨床病理学的検討

高血圧と腎障害の間には密接な関係があるが、腎病理組織についての検討は少ない。我々は、ABPM と腎生検所見について検討し、CKD における血圧異常には尿細管・間質障害が寄与することを示した (Haruhara K, et al. Hypertens Res 2015)。また、高血圧性腎硬化症の腎生検例では糸球体密度が低値であることを報告した (Haruhara K, et al. Am J Hypertens 2015)。

IV. 腎内アンギオテンシン (ANGII) の由来についての検討

近年、腎内 ANGII は腎内アンギオテンシノーゲン (Atg) からではなく、肝臓で産生された Atg 由来であることが明らかにされた。我々は、肝臓由来の血液中の Atg が糸球体で濾過後に尿細管で再吸収され ANGII 産生に供すると仮説し、UUO モデルで研究した結果、腎内 ANGII 量は糸球体で濾過される Atg 量により規定されていることを示した。(Okabe M, et al. Am J Physiol 2015)

V. 糸球体上皮細胞で産生される BMP の近位尿細管に対する作用

糸球体上皮細胞は濾過障壁の形成に重要な役割を担う一方、増殖因子やサイトカインを産生しネフロ

ンにおけるクロストークに関与している。今回、Dox 投与により、Podocyte 特異的に BMP 阻害蛋白質である Noggin を発現するマウスモデルを作成し、検討した結果、Podocyte 障害は糸球体障害のみならず、BMP の発現低下を介して尿細管・間質障害の原因となりうる可能性を示した (Suyama M, et al. 投稿中)。

VI. 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝に関する研究

基礎研究では、慢性腎臓病病態が副甲状腺発生に必須である転写因子 Gcm2 にどのような影響を及ぼすのか、あるいはエピジェネティクスな修飾をもたらすかを解析している。また Gcm2 のホモログである Gcm1 の機能解析を行っている。臨床研究では、慢性腎臓病患者で新規 P 吸着薬として開発されたクエン酸第二鉄が血清 FGF23 (fibroblast growth factor-23) 値を下げることを明らかにした (Yokoyama K, et al. Clin J Am Soc Nephrol 2014)。

VII. 腹膜透析に関する研究

我々は、PD+HD 併用療法を世界で初めて実施し、当治療法を推進している。106 例の多施設共同研究により、腹膜透過性高値の改善、sCr の低下、貧血の改善、体液過剰の是正効果があることを明らかにした (Maruyama Y, et al. Blood Purif 2014)。さらに PD+HD 併用療法により HD と遜色ない生命予後が得られることを明らかにした (Matsuo N, et al. Kidney Int 2015)。腹腔鏡検査を用いて腹膜透析液の中性化による腹膜傷害を評価している。

VIII. 腎移植に関する研究

腎移植病理研究から 2 つの知見を見出した。1. 慢性抗体関連型拒絶反応は傍尿細管毛細血管の Caveolin-1 染色性と強く関連し、50% 以上陽性例における移植腎予後の増悪を確認した。2. 腎移植後 3 か月以内の Medullary ray injury のある症例は、ない症例に比べて 3 年後腎機能が悪化することを確認した。加えて、ABO 適合性と CMV について比較検討し、ABO 不適合移植では CMV 血症が多いが、CMV 感染症の頻度は両群で差がないことを確認した。

IX. 多発性嚢胞腎に関する研究

常染色体優性多発性嚢胞腎は PKD1/PKD2 遺伝子異常により発症する遺伝性腎疾患である。我々はこれまでに PKD 遺伝子の機能解析、日本における

常染色体優性多発性嚢胞腎患者の遺伝子解析を行ってきた。さらに嚢胞形成・拡大機序など疾患の病態を解明し、世界で初めての治療薬開発の基礎研究に貢献してきた。現在、多発性嚢胞腎外来を開設し、患者の治療、情報提供を行うとともに、遺伝子解析および遺伝カウンセリングに関する研究を行っている。

X. アデニン誘発腎不全モデルラットにおけるアジルサルタンの腎保護効果の検討

昨年に引き続き、アデニン誘発腎不全モデルラットにおけるアジルサルタンの腎保護効果とその機序につき検討した。Nが増えたことにより、昨年報告した内容と一部異なる結果となっている。1日尿蛋白排泄量は、アジルサルタン投与にても改善を認めなかった。尿中ナトリウム排泄は、無治療群では有意に減少したが、アジルサルタン投与群では減少を認めなかった。24時間血圧は、両群ともベースの血圧が低値であり、アジルサルタン投与により有意にさらに降圧を示し、交感神経活性は亢進した。既報では、アンジオテンシン受容体拮抗薬 (ARB) 投与により尿中への塩分排泄を亢進し、交感神経活性を抑制すると報告されているが、本研究のような血圧上昇を認めない腎不全モデルでは、過降圧に伴い反射性の交感神経活性の亢進が起こり、本来備わっている ARB の臓器保護効果が十分に発揮できない可能性が示唆された。今後高血圧をベースとする腎不全モデルでの研究を追加し、さらなる検討を重ねる。

XI. 高血圧症における中心血圧測定の有用性とアルドステロンとの関連 (継続研究)

本態性高血圧 (EH) 患者と心血管リスクの高いとされる原発性アルドステロン症 (PA) 患者とで、心臓などの主要な臓器に直接かかる圧力である中心血圧とアルドステロンとの関連を検討した。EH 患者では、血中アルドステロン濃度が上昇するにつれ中心血圧と上腕収縮期血圧の差 (CBP-SBP) が広がる傾向となった。PA 患者では EH 患者に比し、CBP-SBP が有意に高く、PA の治療によりその差は小さくなった。EH 患者では、アルドステロンのわずかな変化でも中心血圧に影響を及ぼすが、PA ではアルドステロンの過剰分泌により RAS の制御が破綻し、組織 RAS 活性の上昇や炎症の亢進など、血中の RAS に依存しない別の機序により中心血圧の上昇を来す可能性が示唆された。また、上腕収縮期血圧が正常でも、RAS 亢進により中心血圧が

異なった動態を示し、心血管リスクが高くなる可能性が示唆された。

XII. 高尿酸血症が高血圧および慢性腎臓病新規発症に与える影響

高尿酸血症は、高血圧や慢性腎臓病の進展因子ではあるが、新規発症因子となりうるかは賛否両論がある。本研究では縦断的コホート研究にて検討した。本学関連施設における 10,000 人余りの健診データから、高尿酸血症が高血圧および慢性腎臓病の新規発症に及ぼす影響につき、縦断的にコホート追跡した。高尿酸血症は高血圧および慢性腎臓病の新規発症のリスクになり得ることが認められた。

「点検・評価」

IgA 腎症の臨床研究については、厚労省の進行性腎障害研究班を主導し、扁桃摘出+ステロイドパルスとパルス単独の RCT に関して貴重な成果を挙げている。また、ステロイドパルス後の再発に関与する因子についても、論文投稿中である。各種腎疾患における糸球体密度に関する検討は、当研究室独自のユニークな研究で、腎障害進行の新たな論理として、大変注目されている。また、これら研究の根本となる基礎研究としての、日本人におけるネフロン数の推算についての研究も多施設共同で進行中である。高血圧と関連する腎障害に関する臨床病理学的検討については、ABPM と腎組織という新しい観点での研究を論文化し、注目されている。腎内 ANGII の由来についての検討においては、腎内 ANGII 量は、Atg からではなく、糸球体で濾過される Atg 量により規定されているという画期的な evidence を示した。また、糸球体上皮細胞に関する研究では、特殊なラットモデルを使用し、Podocyte 障害は糸球体障害のみならず、BMP の発現低下を介して尿細管・間質障害の原因となりうる新しい可能性を示している。

さらに我々は慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝の研究において、我が国のこの領域をリードしており、多くの海外学術雑誌に掲載され、内外に高い評価を得ている。私立大学戦略的研究基盤形成事業研究 (アマテラス研究)、科研費を始めとした競争的研究資金を多く得て研究を進めている。腹膜透析患者の併用療法、腹腔鏡の観察は臨床的意義が高く、慈恵発の新しい腹膜評価法としての世界への情報発信が可能であると思料する。移植腎の病理組織学的検討は、慢性拒絶反応の病態に迫るものである。また、多発性嚢胞腎の嚢胞形成のメカニズムを解明す

ることが、治療法に結びつくものと期待している。今後、腹膜透析、腎移植、多発性嚢胞腎のコホート研究を予定している。

高血圧症の病態検討の上では、血圧変動は腎機能および心血管イベント発症の観点から大変重要であると考えられるが、その機序については不明な点も多い。高血圧におけるレニンアンジオテンシン系と塩分や交感神経との関連は、まだ不明な点も多い。現在の研究においても、実験モデルを変更することで異なる傾向が出る可能性があり、病態に迫るうえで大切と考えられる。高血圧症、ことに原発性アルドステロン症においては、アルドステロン産生腺腫と特発性アルドステロン症とで病態が異なる可能性も言われており、アルドステロンの病態の関与について解明するために、さらにn数を増やし検討を重ねることが必要と考える。また高尿酸血症が各疾患の発症因子となり得るかも未だ不明な点も多く、基礎および臨床の両面から検討することは、多くの患者を抱える当科の責務であり、国内外に発信できる有用な情報として今後の展開が期待される。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Maruyama Y, Yokoyama K, Nakayama M, Higuchi C¹⁾, Sanaka T¹⁾ (¹Tokyo Women's Medical Univ), Tanaka Y²⁾, Sakai K²⁾, Mizuiri S²⁾ (²Toho Univ), Otsuka Y, Kuriyama S, Maeba T (Asao Kidney Clinic), Iwasawa H³⁾, Nakao T³⁾ (³Tokyo Medical Univ), Hosoya T; EARTH (Evaluation of the Adequacy of Renal replacement THERapy) study group. Combined therapy with peritoneal dialysis and hemodialysis: a multicenter retrospective observational cohort study in Japan. *Blood Purif* 2014; 38(2): 149-53.
- 2) 横山啓太郎. 【CKD-MBD (慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常) の新たな展開】新しいリン吸着薬とその役割. *Clin Calcium* 2014; 24(12): 1815-23.
- 3) Okamoto H, Haruhara K, Kamejima S, Mafune H, Manabe M, Kanzaki G, Mashiko H (Mashiko Hosp), Yokoo T. Is granular formulation of lanthanum carbonate more effective than chewable tablets? *Ther Apher Dial* 2014; 18(1): 23-7.
- 4) Nakada Y, Yamamoto I, Kobayashi A, Mafune A, Yamakawa T, Matsuo N, Tanno Y, Ohkido I, Yamamoto H, Yokoyama K, Yokoo T. Acute vascular rejection during antituberculosis therapy in a kidney transplant patient. *Nephrology (Carlton)* 2014; 19(Suppl.3): 27-30.
- 5) Kobayashi A, Yamamoto I, Nakada Y, Kidoguchi S, Matsuo N, Tanno Y, Ohkido I, Tsuboi N, Yamamoto H (Atsugi City Hosp), Yokoyama K, Yokoo T. Successful treatment of BK virus nephropathy using therapeutic drug monitoring of mycophenolic acid. *Nephrology (Carlton)* 2014; 19(Suppl.3): 37-41.
- 6) Okabe M, Miyazaki Y, Niimura F¹⁾, Pastan I (National Institutes of Health), Nishiyama A (Kagawa Univ), Yokoo T, Ichikawa I¹⁾²⁾ (²Vanderbilt Univ), Matsusaka T¹⁾ (¹Tokai Univ). Unilateral ureteral obstruction attenuates intrarenal angiotensin II generation induced by podocyte injury. *Am J Physiol Renal Physiol* 2015; 308(8): F932-7. Epub 2015 Feb 11.
- 7) Kurashige M, Hanaoka K, Imamura M¹⁾, Udagawa T, Kawaguchi Y, Hasegawa T, Hosoya T, Yokoo T, Maeda S¹⁾ (¹RIKEN). A comprehensive search for mutations in the PKD1 and PKD2 in Japanese subjects with autosomal dominant polycystic kidney disease. *Clin Genet* 2015; 87(3): 266-72.
- 8) Yamanaka S, Yokote S, Yamada A, Katsuoka Y, Izuohara L, Shimada Y, Omura N, Okano HJ, Ohki T, Yokoo T. Adipose tissue-derived mesenchymal stem cells in long-term dialysis patients display downregulation of PCAF expression and poor angiogenesis activation. *PLoS One* 2014; 9(7): e102311.
- 9) Haruhara K, Tsuboi N, Koike K, Fukui A, Miyazaki Y, Kawamura T, Ogura M, Yokoo T. Renal histopathological findings in relation to ambulatory blood pressure in chronic kidney disease patients. *Hypertens Res* 2015; 38(2): 116-22.
- 10) Tanabe N, Takane K, Yokoyama K, Tanno Y, Yamamoto I, Ohkido I, Yokoo T. Dialysate temperature adjustment as an effective treatment for baroreflex failure syndrome in hemodialysis patient. *BMC Nephrol* 2014; 15: 151.
- 11) Furuya M, Yamamoto I, Kobayashi A, Nakada Y, Sugano N, Tanno Y, Ohkido I, Tsuboi N, Yamamoto H (Atsugi City Hosp), Yokoyama K, Yokoo T. Plasma cell-rich rejection accompanied by acute antibody-mediated rejection in a patient with ABO-incompatible kidney transplantation. *Nephrology (Carlton)* 2014; 19(Suppl.3): 31-4.
- 12) Yokoyama K, Akiba T (Tokyo Women's Medical Univ), Fukagawa M (Tokai Univ), Nakayama M (Fukushima Medical Univ), Sawada K (Akita Univ), Kumagai Y (Kitasato Univ), Chertow GM (Stanford Univ), Hirakata H (Fukuoka Hosp). Long-term safety and efficacy of a novel iron-containing phosphate binder, JTT-751, in patients receiving hemodialysis. J

Ren Nutr 2014; 24(4) : 261-7.

- 13) 栗山 哲, 中野知子(東京国税局診療所), 丸山之雄, 菅野直希, 高根紘希, 末次靖子, 高橋康人, 小林千紗, 西尾信一郎, 高橋大輔, 木戸口慧, 市田公美, 大野岩男, 細谷龍男, 横尾 隆. 血清尿酸値と筋力・筋肉量の関連性 大規模観察研究からの新たな知見. 日腎会誌 2014; 56(8) : 1260-9.
- 14) 栗山 哲, 中野知子¹⁾, 真家健一¹⁾, 真島香代子¹⁾, 田邊智子¹⁾, 横田真由美¹⁾, 岡本佳子¹⁾ (¹東京国税局診療所), 横尾 隆. 高尿酸血症治療薬 Febuxostat の臨床的有用性. Ther Res 2014; 35(7) : 677-86.
- 15) 池田雅人, 中尾正嗣, 横山啓太郎, 横尾 隆, 安藤亮一¹⁾, 稲熊大城¹⁾, 常喜信彦¹⁾, 小岩文彦¹⁾, 小松康宏¹⁾, 坂口俊文¹⁾, 篠田俊雄¹⁾, 山家敏彦¹⁾, 重松隆¹⁾ (¹日本透析導入研究会). RAA 系阻害薬は腎不全末期のうっ血性心不全発症リスク減少に関連する. 日腎会誌 2014; 56(3) : 92.
- 16) 丸山之雄, 横山啓太郎, 細谷龍男, 横尾 隆. 【腹膜透析 2014】腹膜透析と血液透析での血清ヘプシジン濃度の比較と寄与因子の検討. 腎と透析 2014; 77(別冊腹膜透析 2014) : 173-4.
- 17) 西川 元, 山口雄一郎, 大野岩男, 細谷龍男, 横尾 隆. 慢性腎臓病患者における血清尿酸値と腎病理組織所見との関連. 痛風と核酸代謝 2014; 38(2) : 109-16.
- 18) 西川 元, 市田公美, 大野岩男, 細谷龍男, 横尾 隆. 腹部超音波検査で診断された痛風腎症例の特徴と ABCG2 遺伝子変異. 痛風と核酸代謝 2014; 38(2) : 117-28.
- 19) 田熊亜希子, 深堀幸子, 飯久保素子, 丹野有道, 大城戸一郎, 横山啓太郎, 細谷龍男, 横尾 隆. 【腹膜透析 2014】iOS 端末 (iPhone/iPad) を用いた腹膜透析支援システム (iPD) の使用実態について. 腎と透析 2014; 77(別冊腹膜透析 2014) : 343-4.

II. 総 説

- 1) Yokoo T. Kidney regeneration with stem cells: an overview. Nephron Exp Nephrol 2014; 126(2) : 54-8.
- 2) Tsuboi N, Kanzaki G, Koike K, Kawamura T, Ogura M, Yokoo T. Clinicopathological assessment of the nephron number. Clin Kidney J 2014; 7(2) : 107-14.
- 3) 横尾 隆. 医学と医療の最前線 腎臓病と再生医学. 日内会誌 2015; 104(3) : 600-6.
- 4) 山中修一郎, 横尾 隆. 【AKI 診療の進歩】AKI における再生医療. 腎と透析 2014; 76(4) : 524-7.
- 5) 横山啓太郎. 【新たな腎臓病の知識・治療】CKD-MBD の最新の治療. 成人病と生活習慣病 2015; 45(1) : 115-22.
- 6) 横尾 隆, 山中修一郎. 腎臓再生医療の研究の現状.

日透析医学会誌 2014; 29(2) : 246-51.

- 7) 田尻 進, 山中修一郎, 横尾 隆. 【新たな腎臓病の知識・治療】腎臓再生医療の最新の知識. 成人病と生活習慣病 2015; 45(1) : 52-6.
- 8) 山中修一郎, 横尾 隆. 【腎臓再生医療 - 臨床応用に向けた新たな取り組み】多能性幹細胞から三次元臓器へ 体性幹細胞から腎臓再生. 腎と透析 2014; 77(6) : 952-6.
- 9) 山中修一郎, 岡野ジェイムス洋尚, 横尾 隆. 腎臓再生実現に向けた長期透析患者における脂肪由来間葉系幹細胞の解析. 慈恵医大誌 2014; 129(6) : 210-1.

III. 学会発表

- 1) Tanno Y, Ohkido I, Watanabe K, Yokoyama K, Yokoo T. Development of telemedical service using smartphones for PD patients. Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting. Philadelphia, Nov.
- 2) Maruyama Y, Yokoyama K, Yokoo T, Shigematsu T¹⁾, Iseki K¹⁾, Tsubakihara Y¹⁾ (¹Committee of Renal Data Registry, Japanese Society for Dialysis Therapy). A higher serum ferritin is associated not only with all-cause mortality but also infection-related mortality among patients receiving hemodialysis in Japan. Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting. Philadelphia, Nov.
- 3) Koike K, Tsuboi N, Ikezumi Y¹⁾, Kanzaki G, Ogura M, Saitoh A¹⁾ (¹Niigata Univ), Yokoo T. Characteristics of renal biopsies in children of low birth weight. Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting. Philadelphia, Nov.
- 4) Nakao M, Yamamoto I, Matsuo N, Maruyama Y, Tanno Y, Ohkido I, Ikeda M, Yokoyama K, Yokoo T. A retrospective observational study of peritoneal dialysis associated peritonitis and encapsulating peritoneal sclerosis during therapy with a twin-bag system and biocompatible peritoneal dialysis solutions. Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting. Philadelphia, Nov.
- 5) Yokote Y, Yamanaka S, Katsuoka Y, Tajiri S, Ohkido I, Ogura M, Yokoo T. The effect of autologous adipose-derived mesenchymal stem cell transplantation on vascular calcification in rats with adenine-induced kidney disease. Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting. Philadelphia, Nov.
- 6) Nakada Y, Yamamoto I, Tanno Y, Ohkido I, Yokoyama K, Yamamoto H, Yokoo T. The diagnostic and prognostic value of C aveolin-1 immunoreactivity

- in peritubular capillaries in patients with chronic antibody-mediated rejection. *Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 7) Okabe M, Motojima M¹⁾, Miyazaki Y, Yokoo T, Fukagawa M¹⁾, Ichikawa I¹⁾²⁾ (²Vanderbilt Univ), Matsusaka T¹⁾ (¹Tokai Univ). A new mosaic mouse model of segmental podocyte ablation. *Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 8) Kurashige M, Hanaoka K, Imamura M¹⁾, Udagawa T, Kawaguchi Y, Hasegawa T, Hosoya T, Maeda S¹⁾ (¹RIKEN), Yokoo T. Decreased Urine concentration ability precede renal function decline in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease with PKD1 mutation. *Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 9) Yamanaka S, Yokote S, Katsuoka Y, Tajiri S, Okano HJ, Yokoo T. Adipose tissue-derived mesenchymal stem cells in long-term dialysis patients display downregulation of PCAF expression and poor angiogenesis activation. *Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 10) Nakashima A, Ohkido I, Yokoyama K, Urashima M, Yokoo T. Bioavailable testosterone affects renal anemia in male hemodialysis patients. *Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 11) Morishita M, Nakao M, Matsuo N, Yamamoto I, Maruyama Y, Tanno Y, Ohkido I, Ikeda M, Yokoyama K, Yokoo T. The acid-base differences affect the calcium-PTH axis of dialysis patients: comparison between peritoneal dialysis and hemodialysis. *Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 12) Haruhara K, Tsuboi N, Koike K, Shimizu A, Suyama M, Miyazaki Y, Kawamura T, Ogura M, Yokoo T. Relationship between ambulatory blood pressure and renal histopathological findings of the Oxford classification in patients with IgA nephropathy. *Kidney Week 2014: American Society of Nephrology 47th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 13) 横尾 隆. (ランチョンセミナー18) 腎臓再生研究の現状と未来. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月.
- 14) 横山啓太郎. (ランチョンセミナー21) 保存期高リン血症改善剤に新たな選択肢. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月.
- 15) 小林政司, 寺脇 博, 田尻 進, 松本 啓, 濱口明彦, 小倉 誠, 川村哲也, 横尾 隆. IgA腎症患者における尿蛋白排泄量の代替としての随時尿蛋白/Cr濃度比の妥当性の検討. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月. [日腎会誌 2014; 56(3): 356]
- 16) 小林賛光, 三留 淳, 山本 泉, 山川貴史, 眞船 華, 中田泰之, 丹野有道, 大城戸一郎, 坪井伸夫, 山本裕康, 横山啓太郎, 横尾 隆. 腎移植後の糸球体腫大とその臨床病理学的意義. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月. [日腎会誌 2014; 56(3): 327]
- 17) 小池健太郎, 坪井伸夫, 池住洋平(新潟大), 神崎 剛, 小倉 誠, 齋藤昭彦, 横尾 隆. 出生時低体重の小児における腎生検所見の検討. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月. [日腎会誌 2014; 56(3): 338]
- 18) 岡部匡裕, 宮崎陽一, 横尾 隆, 大塚正人¹⁾, 市川家國¹⁾, 深川雅史¹⁾, 松阪泰二¹⁾ (¹東海大). 一部のポドサイトのみに限局した傷害を誘導可能な新しいモデルマウス. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月. [日腎会誌 2014; 56(3): 315]
- 19) 内山威人, 辰巳徳史, 大城戸一郎, 横山啓太郎, 細谷龍男, 横尾 隆, 岡部正隆. 慢性腎不全は副甲状腺細胞の遺伝子カスケード及びエピジェネティック修飾に動的変化をもたらす. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月. [日腎会誌 2014; 56(3): 328]
- 20) 春原浩太郎, 坪井伸夫, 清水昭博, 小池健太郎, 宮崎陽一, 川村哲也, 小倉 誠, 横尾 隆. IgA腎症における病理組織所見と自由行動下血圧との関連. 第57回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月. [日腎会誌 2014; 56(3): 355]

IV. 著 書

- 1) 川村哲也, 宮崎陽一, 横尾 隆. II. Clinical nephrology A. 糸球体障害 1. IgA腎症における扁桃・ステロイドパルス療法のランダム化比較試験の結果. 富野康日己(順天堂大), 柏原直樹(川崎医科大学), 成田一衛(新潟大)編. *Annual Review 腎臓 2015*. 東京: 中外医学社, 2015. p.108-16.
- 2) 横尾 隆. 1章: 大麦ってスゴイ! その7: 高血圧の予防. 東京慈恵会医科大学附属病院栄養部監修. 慈恵大学病院のおいしい大麦レシピ: 病院がはじめて大麦の魅力を解説. 東京: 出版文化社, 2015. p.20-1.
- 3) 松本 啓, 横尾 隆. 第6章: 腎性貧血 1. 腎性貧血治療の進歩 成体幹細胞由来EPO産生細胞による貧血再生療法の開発. 平方秀樹(福岡赤十字病院)監修. 全人力・科学力・透析力: for the people: 透析医学. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2014. p.374-7.